

《偏食の子》と《食べられない子》の違い

判断項目	《偏食の子》	《食べられない子》
出されたら食べられる食品の種類	食べられる食品の範囲や種類が少ない；通常30種類以上の食品を食べている	食品の範囲や種類の制限が多い；通常20品目以下の食物しか食べない
特定の食べ物ばかり食べたがり、その後 "燃え尽き症候群" のように飽きて食べられなくなる場合	食べられなくなることがあっても、多くの場合、2週間ほど間をあけると、また食べられるようになる。	食べられなくなった食品は、期間をあけたとしても再び食べることはない。結果として食べられる食品の数が減少する。
栄養群や食感で子どもが食べられる食品をカテゴリ化した場合の、食べられる食品の分布	ほぼ全てのカテゴリで1種類以上は食べられる食品がある（例：ピューレ、溶ける食品、タンパク質、果物）	特定の食感や栄養群のカテゴリにあたる食品は全て拒否する（例：肉、野菜、アボカドやバナナのように形はしっかりしているが舌でつぶせる食感、外側が硬くて口の中で噛み砕いて咀嚼する食感 など）
初めての食べ物がお皿に盛られていた場合の反応	見慣れない食べ物も我慢をし、嫌がることはあっても、たいがいは食べ物を触ったり味わったりすることができる。	泣く、叫ぶ、痙攣を起こす、興奮・混乱状態になる等で抵抗を示し、非常に強く拒否をする
食事の時間と内容が家族と同じであるか	他の家族とは異なる食品を食べることが多い。主に他の家族と同じ時間に同じテーブルで食事をする	だいたい家族とは異なる食品を食べる。他の家族とは異なる時間や場所で食事をする事が多い
健診時の保護者による状況表現	健診時に親から「好き嫌いが多い」と表現される	複数回の健診で、親から「偏食」が続くと報告される
新しい食品を食べられるようになるまでに要する段階数	「食べ方のステップ」の20～25段階が必要です。	「食べ方のステップ」の25段階以上が必要です。

各設問に対し、お子さんに当てはまる場合に○をつけてください。どちらも当てはまらない場合は、どちらにも○を付けず、次に進んでください。全て確認したら左右の各列の○の数を数えます。○が多いほうの列がお子さんのタイプと判断します

専門家にかからずに問題を克服できるのは、《偏食の子》の50%以下、《食べられない子》の場合はわずか6%にすぎません。《食べられない子》の欄に多く○がついた場合は、できるだけ早く摂食のセラピストにかかることをおすすめします。

*この文書は SOS Approachの文書を許諾を得てつばめの会が和訳いたしました。改変・無断利用を禁止いたします。www.tsubamenokai.org